

正常ではない！ 2人の高校バスケット選手がゲーム中、同じ日に死ぬ

<https://www.infowars.com/posts/not-normal-two-high-school-basketball-players-collapse-mid-game-and-die-on-same-day/>

Kelen McBreen

February 10, 2022

⇒これは、我々が慣れなければならない「新しいノーマル」なのか？

⇒主流メディアが、彼らのアジェンダを推進するために、しばしば大衆の感情に訴えようとするが、彼らはほとんど、これらの悲劇を無視している。

異なった州の2人のティーンエイジャーが、火曜日、彼らの高校のバスケットボールの試合で、共に突然、倒れて死んだ。

テキサス州高2生の Devonte Mumphrey と、イリノイ州高3生の Cameran Wheatley が、悲劇的にも、彼らの好きなスポーツをやっている最中に、死去した。

Alto 高校に通っていたマンフリーは、2021年に、全学区の 22-2 A 年間新人に選ばれていた。 https://tylerpaper.com/all-district-22-2a/article_5284eda4-81d7-11eb-955e-fffaf1b73857.html

「これ以上の選手はいませんでしたよ。みんなに愛され尊敬されていた」と、マンフリーのいとこジェシカは、Tyler Morning Telegraph に話した。・・・

https://tylerpaper.com/news/local/family-remembers-alto-athlete-who-collapsed-died-as-kid-who-touched-everybody/article_d736ecaa-89ba-11ec-b355-4be85c190d29.html

マンフリーが倒れた同じ夜、1千マイルほど離れて、Bremen 高校のカメラン・ホイートリーもまた、コートに倒れ、後に死亡が確認された。

「どう考えたらいいかわからないほど、悲劇的なことだ」と、この学校に通う子どもたちと一緒の親は言った。「これほど若い高校生に、こんなことが起こるなんて、どうしても考えられませんよ。」 <https://wgntv.com/news/suburban-high-school-basketball-player-dies-after-collapsing-during-game/>

ABC の報道によると、ホイートリーの父親は、息子は完全な健康証明書を持ち、ほとんど 10 年間、数種類のスポーツをやっていたと確認した。

<https://abc7chicago.com/cameran-wheatley-bremen-high-school-basketball-christ-hospital/11549978/>

この 10 代の少年たちのワクチン接種の確認書類はわかっておらず、検死の報告はまだ出ていない。

しかし、健康な運動選手が、こんなふうに倒れて死ぬものではない。にもかかわらず、このような出来事の例は、実験的ワクチンの展開が始まって以来、増え続けている。

今週初め、Infowars は、ある郡の検死官の死体解剖報告を取材した。これは 24 歳のニューヨーク大学学生 George Watts Jr. のもので、ファイザーの Covid 注射との直接の関係によって死んだことを、確認するものだった。<https://www.infowars.com/posts/autopsy-confirms-college-student-died-from-covid-19-vaccine-related-myocarditis/>

先月、Infowars は、ファイザーの Covid -19 ワクチンのブースター注射の後、心筋炎によって死んだ、26 歳の男性 Joseph Keating について報告した。

<https://www.infowars.com/posts/pfizer-booster-listed-as-cause-of-death-in-26-year-olds-autopsy-death-certificate-after-work-mandated-jab/>

その死亡証明書によると、キーティングの死は、「左心室と隔膜に関わる多源性の心筋炎によって起こった」もので、それは「最近のファイザーの Covid -19 ブースター・ワクチン」とリストされた、第 2 の死因をもつものである。

2021 年 10 月、カリフォルニア州 Sonoma 郡警察が、ファイザーの実験的 mRNA 注射が原因となって、ある地方の 10 代男子が、突然、死亡したと非難した。

<https://www.infowars.com/posts/sheriffs-office-attributes-california-teens-death-to-second-pfizer-jab/>

このティーンエイジャーの死の報告は、死後の検査が、法医病理学者によって行われた後、「死の原因は、以下のようなものと決定された」と述べている：——「Stress Cardiomyopathy with Perivascular Coronary Artery Inflammation (数時間から数日)で、Unknown Etiology in Setting of Recent Pfizer-BioNTech Covid-19 Vaccination (数日)によるもの」。

関連記事：

「病理学的調査結果が、ワクチン接種後に死んだ人々の 97%が、ワクチンによるものであることを示す」 <https://www.infowars.com/posts/pathology-results-show-93-of-people-who-died-after-being-vaccinated-were-killed-by-the-vaccine/>

「COVID ワクチン接種を受けた患者の最初の検死が、身体のあらゆる器官にウイルス RNA を発見」 <https://www.infowars.com/posts/first-autopsy-of-covid-vaccinated-patient-found-spike-proteins-in-every-organ-of-body/>

War Room のオウエン・シュロイヤーが、先月、編集ビデオを放映し、世界各地のアスリートたちが、思いがけず、集団 Covid ワクチン接種の盛期に、倒れて死んでいることを示した。

[ここをクリックし](#)、現在、常時 GETTR で流れている、我々のライブ情報をご覧ください。 <https://www.gettr.com/user/infowars> また、緊急ニュースや独占情報については、GETTR の [Alex Jones](#) や [Banned.video](#) を追跡していただきたい。

<https://www.gettr.com/user/alexjones>

<https://gettr.com/user/banneddotvideo>

[訳者注] この 2 人の高校生アスリートの他に、ここに紹介されている同様の出来事から、健康な若者が明かにワクチン注射によって、いかにバツタリ倒れて死ぬケースが多いかがわかる。これはもちろん運動選手に限らず、話し中に突然、朽木が倒れるように倒れる人のビデオも、いくつかある。わが国では、中日ドラゴンズの木下雄介投手が、昨年 8 月に、そのように死んだことが知られているが、少なくとも大きなニュースにはならず、明かに隠されている。

こんな事件は、たとえ一件でも、因果関係が明らかにされれば、その時点で、ワクチン接種は中止すべきべきである。しかし世間では、一件どころか、数百件の、同じパターンで、因果関係の明らかでない事件があっても、それが証明できない限りは、アスリートの死の責任は生じないことになっている。

ところでかりに、私が権威ある医者であり、優生学思想の持ち主で、人口削減実施という、**崇高な目標**を公言している、と仮定しよう。その限りで、私が罪に問われることはない。しかしダウン症の娘をもつ父親が、私の病院に娘を入院させた。私は自分の思想に従って、**認められた手抜き**によって、彼女を犠牲にすることを選んだ。私は何ひとつ

手を下さなかった。したがって父親に、不平を言う権利があるとは認めない。私は断固としてそう主張するつもりだ。——いかが？

医療殺人：いかに「Covid 医療協約」が優生術のために利用されているか

<https://www.infowars.com/posts/medical-murder-how-covid-protocols-are-being-used-for-eugenics/>

暴政：トルドーが、フリーダム・コンボイに参加する運転手の免許剥奪を脅迫

<https://www.infowars.com/posts/tyranny-trudeau-threatens-to-suspend-licenses-of-truckers-participating-in-freedom-convoy-protest/>

February 11, 2022

⇒「君たちは免許を失い、犯罪歴を作りたくはないだろう。それは君たちの職にも響き、生計も立てられず、アメリカを含めて、国外へも旅行できなくなるのだ」と、カナダ首相は言った。

カナダの首相ジャスティン・トルドーは、トラック運転手たちの「フリーダム・コンボイ」という、反ワクチン命令抗議集団に対して、メッセージを発し、「ほざくのをやめて家に帰れ、さもなくば…」と、脅迫した。

「我々は君たちの、Covid に対する不満、人々に安全を与えるための手段に対する不満を、聞いてきた」と、トルドーは、金曜日、オンタリオ州が非常事態を宣言した後の、記者会見で言った。

「それは十分に聞いた。今は家に帰るべき時だ。」

【訳者 Greatchain より】

これは明らかに脅迫である。脅迫によって国が治まるものではない、というのが世界の人々の常識である。にもかかわらず、今、世界ではトルドー首相が、(賛否は両様だが)最も大きな脚光を浴びている。彼はまた「私が厳しく規制するのは、これ以上の規制を避けるためだ」とも言っている。これも彼らしい、もっともな言葉である。彼は「暴君」

と呼ぶにふさわしく、その政治は「暴政」というべきものだが、これは突然、現れたものでなく、かなりの潜伏期間、あるいは準備期間があって、時熟して現れたものである。そのように準備されていたと考えることができる。同様に、前代未聞のトラック大部隊「フリーダム・コンボイ」も、時熟して目覚めたものである。彼らは一時的に弾圧されたり、敗北したりするかもしれないが、敗退はしないであろう。

ところでわが国の現政府の立場は、これまで観察したところでは、「反ワクチン」でなく、「親ワクチン」もしくは「ウルトラ・ワクチン」であって、完全にトルドーの立場に立っている。わが国政府は、それが「安泰」と考えているようにみえるが、これは正反対の現実判断だと言ってよい。この「安泰」という自己判断は、「ポリティカリー・コレクト」と言われ、(科学的真実は知らず) 政治的に間違っていないという、日和見的態度のことである。これは非常に危険だけでなく、「目覚めた」世界から軽蔑され、大きく非難されるだろう。

ところで、あるハーバードの教授が、フリーダム・コンボイ運動に対して、「タイヤを傷つけよ、ガソリンを抜いてしまえ、ドライバーを逮捕せよ」と、暴力を扇動しているらしい。<https://www.infowars.com/posts/slash-the-tires-arrest-the-drivers-harvard-professor-and-cnn-analyst-calls-for-violence-against-freedom-convoy/> これはにわかには信じられない話だが、アメリカの現情を見ていると、大学当局がこの種の「親ワクチン」運動をして、反対する学生を痛めつけるケースが目立っている。これは半世紀前の、わが国の学界・教育界の「左翼」運動を思わせる。「左翼」とは何だったのか？ いやいや、何であり続けているのか？ 私の答えははっきりしている。サヨクの「サ」とは「サタン主義」のことである——とだけ今は言っておこう。